

UNIVERSITY CONSORTIUM KYOTO

会報

2009.1 No.34

新春メッセージ

平成20年度 戦略的大学連携支援事業
京都地域での取り組み Part1

FD、SD特集

教員の教育力向上と
職員の能力開発を目指して

京都学術共同研究機構
季刊アカデミア

TOPICS

PROJECT REPORT

Information

近日開催予定の行事・イベント

 財団 大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto
URL <http://www.consortium.or.jp>



【京都文教短期大学】〒611-0041 京都府宇治市槇島町千足80



京都市長
門川 大作

世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」の実現に向けて

新年おめでとうございます。財団法人大学コンソーシアム京都の皆様のご健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。

京都に生まれ、京都に育てられた私は京都が大好きです。市長に就任して10箇月、改めて京都の“凄さ”に感動しています。

今、極めて厳しい社会経済状況など、課題は山積しています。しかし、京都の優れた地域力、文化力、歴史力、人間力、これらの「京都力」を結集すれば、必ず乗り越えられると確信しています。「ピンチをチャンスに」、市民の皆様と共に汗する「共汗」で、未来への展望を切り拓く新しい年にして参りたいと決意を新たにしています。

京都は、山紫水明の自然を有し、京都議定書を誕生させた環境先進都市。伝統産業の匠の技と先端技術とが融合するものづくり都市。文化芸術、宗教、人権、福祉、教育、国際、観光都市。そして何より、最先端の知が集積した「大学のまち」、また、学生のエネルギーが充溢する「学生のまち」。これほど多様な特性が、それぞれオンリー1の光を放つ都市は世界中どこにもありません。

大学を巡る情勢も大変厳しいものがありますが、京都の大学が放つ「光」は、困難なときこそより美しく輝く力強さを秘めている、そう信じています。そしてその光を育むのは、大学コンソーシアム京都を中心に、各大学、地域、産業界、行政などが、危機感、責任、行動、成果をしっかりと共有することだと存じます。

こうした観点から、本市では、大学コンソーシアム京都との協働により、平成21年度からの「大学のまち」「学生のまち」の更なる発展を目指す新計画の策定を進めています。また、大学コンソーシアム京都におかれては、今後5年間の指針を定められ、いよいよ第3ステージを迎える年になります。

これらの節目を、大学に関わるあらゆる力の更なる結集のときとし、大学関係者の皆様との「共汗」と縦割行政を排した政策の「融合」により、京都が有する「大学のまち」「学生のまち」の個性と魅力を更に磨き上げて、世界へと発信して参ります。本年もよろしくお祈り申し上げます。

新春メッセージ



財団法人 大学コンソーシアム京都
理事長 八田 英二

大学コンソーシアム京都の新たなステージに向けて

新年明けましておめでとうございます。新たな年を迎えるにあたり、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

百年に一度と言われる厳しい経済情勢で年の幕開けとなりました。大学をはじめとする高等教育機関を取り巻く環境も急速に厳しさを増しています。2008年(平成20年)度入学試験においては、全体として、4(6)年制の大学の47.1%、短期大学の67.5%が入学定員未充足となっており、大学全入時代の到来を実感せずにはおれません。我々大学コンソーシアム京都の加盟大学・短期大学のある京都・大阪地域の定員充足率は東京地域に次いで高くなっておりますが、今後更に、大学コンソーシアム京都を中心とした「京都ブランド」の確立に向けた取組や、各加盟大学・短期大学の改革の一助となる取組の推進、また文部科学省中央教育審議会の答申等でも言われている、「教育の質の向上」や「特色化」等を図らなければ、各大学・短期大学の存在意義自体がなくなってしまうと考えています。更には、多様で質の高い教育を実現していくと同時に、学生の国際的通用性を高めるための取組を進めていくことも必要なことであります。大学院に関しても、教育の改革や、国際社会で通用する競争力や信頼性の向上を図らなければなりません。そのためにも、教職員の能力向上を図ることが、必要不可欠なものと考えております。

2008年度には、京都の大学が連携し、京都産業大学および佛教大学を代表校として文部科学省の戦略的

大学連携支援事業に申請した結果、2件とも採択されました。今後も、大学コンソーシアム京都が連携組織として事業を実施する意義を再確認すると共に、財団の将来像を見据え、事業の積極的な選択と集中を行い、その成果を還元すると同時に新たな事業に取り組むことで、各加盟大学・短期大学の活性化に繋げていきたいと考えております。そのために、2009年度の重点項目として、下記5点をあげました。

★ 2009年度事業計画の最重点課題

- ① 戦略的大学連携支援事業の推進
- ② 単位互換事業・生涯学習事業におけるICTの活用や他機関との連携検討
- ③ 基幹事業の充実・発展と効率化
- ④ 他地域(国内・国外)との連携事業の企画・検討
- ⑤ 第3ステージプランにおけるフレームワークの実現を目指した事業実施

今後も、大学コンソーシアム京都は「京都地域を中心に、大学間連携と相互協力を図り、加盟する大学・短期大学の教育・学術研究の向上や、学生の育成、国際化の推進等に対する取組を行うと同時に、地域社会や産業界との連携による地域の発展・活性化や、京都地域を中心とした高等教育の発展と国際社会をリードする人材の育成」を目指し、各事業を推進してまいり所存でございます。

今後も引き続き、多くの方々に大学コンソーシアム京都の設立趣旨にご賛同頂き、これまで以上のご支援とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成20年度 戦略的大学連携支援事業 京都地域での取り組み Part1

平成20年度から新しく文部科学省による補助事業が始まった。

この補助事業は、地域の大学等間の積極的な連携を推進し、各大学等における教育研究資源を、大学コンソーシアム等を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準、学士力の向上、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的にしている。

この度、全国で94件の申請があり、そのうち京都地域から4つの申請が平成20年度の事業として採択された。

今号では、佛教大学を代表校とする「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」と、京都産業大学を代表校とする「eラーニングシステムの共有共用化に伴う教養教育の大学間連携と効率化の促進」を取り上げる。次号では、京都府立医科大学を代表校とする「京都発国公立大学ヘルスサイエンス系共同大学院の創設と総合的連携による大学力強化」と龍谷大学を代表校とする「地域公共人材のための京都府内における教育・研修プログラムと地域資格認定制度の開発」を取り上げる予定である。

FD

Faculty Development

大学教員が授業内容と方法を改善し、教育効果を向上させるための組織的な取り組みの総称であるFD（ファカルティ・ディベロップメント）。（財）大学コンソーシアム京都是、十数年前から「FDフォーラム」等を実施して、京都地域のFD活動の情報交換・研究交流を推進してきました。

このFD活動をさらに一歩前進させるため、文部科学省・戦略的大学連携支援事業の募集に対し、「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」プログラム（代表校：佛教大学）を申請して採択されました。

事業の目的は、体系的で汎用性のあるFD職能開発プログラムを構築し、加盟大学・短期大学へ提供してFD活動の底上げと高度化を図ること、また京都で学ぶ利点を活かした教育プログラムを可能にする「FDの京都モデル」を連携して確立することにあります。

具体的には、京都FD開発推進センターを代表校の佛教大学に設置し、17の連携校と協力してFD研究拠点を形成します。このセンターでファカルティ・ディベロッパー（FDプログラム等の開発推進者）を養成しながら、次の活動を実施していきます。

- ① 加盟大学・短期大学のFD活動に対するコンサルテーションの実施。
- ② FDの汎用研修プログラム群の開発と提供。
- ③ FD共用システム・アプリケーションの開発・運用。
- ④ 先進的なFDの取り組みを実施している諸外国の大学との交流推進と情報収集。

地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立

- 特 色**
- I. FDe牽引型事業の展開
中小規模大学・短大の牽引
 - II. FD共用システム・アプリケーションの開発・運用指導
汎用的な授業評価システム等の構築
 - III. SDと連携したFDプログラムの開発
教職協働の実践コミュニティの形成
 - IV. 地域の緊密性
年間を通じた継続的なプログラムの提供

京都FD開発推進センター

- FDコンサルテーションの実施
- FD汎用研修プログラムの開発・提供
- FD共用システム・アプリケーションの開発・運用とモニタリング
- FD関連情報の蓄積と発信

FDコンサルテーションの実施

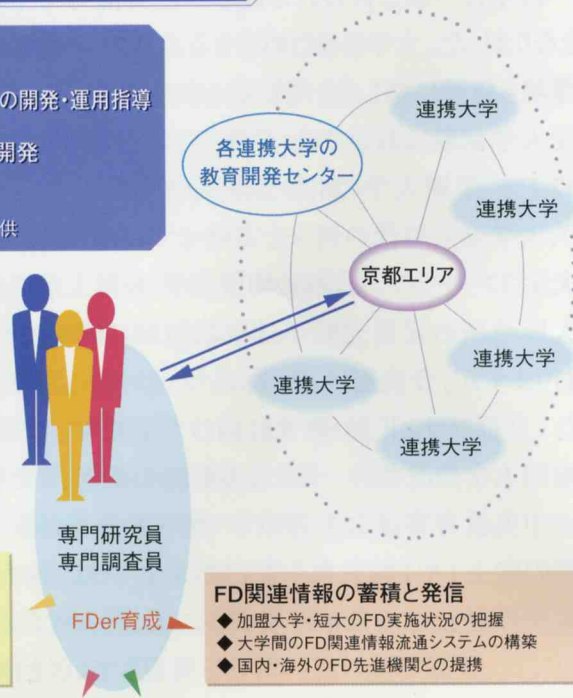
- ◆ FDQA: 簡易な質問への回答
- ◆ 教員のFD向上相談窓口
- ◆ 他機関のFD研究者への仲介
- ◆ 他機関のFD活動情報の紹介

FD汎用研修プログラムの開発・提供

- ◆ 加盟大学・短大で共通利用できる組織的FD汎用プログラムの開発・提供（「修了認定書」の発行）
- ① プレFD（TA、大学院生対象）プログラム
- ② 新任教員対象プログラム
- ③ 分野別教員対象プログラム

FD共用システム・アプリケーションの開発・運用とモニタリング

- ◆ FD共用システム等の開発と運用（授業評価集計など）
- ◆ 新たに開発するFDプログラムのモデル作成と実施検証（モニタリング）のコーディネート

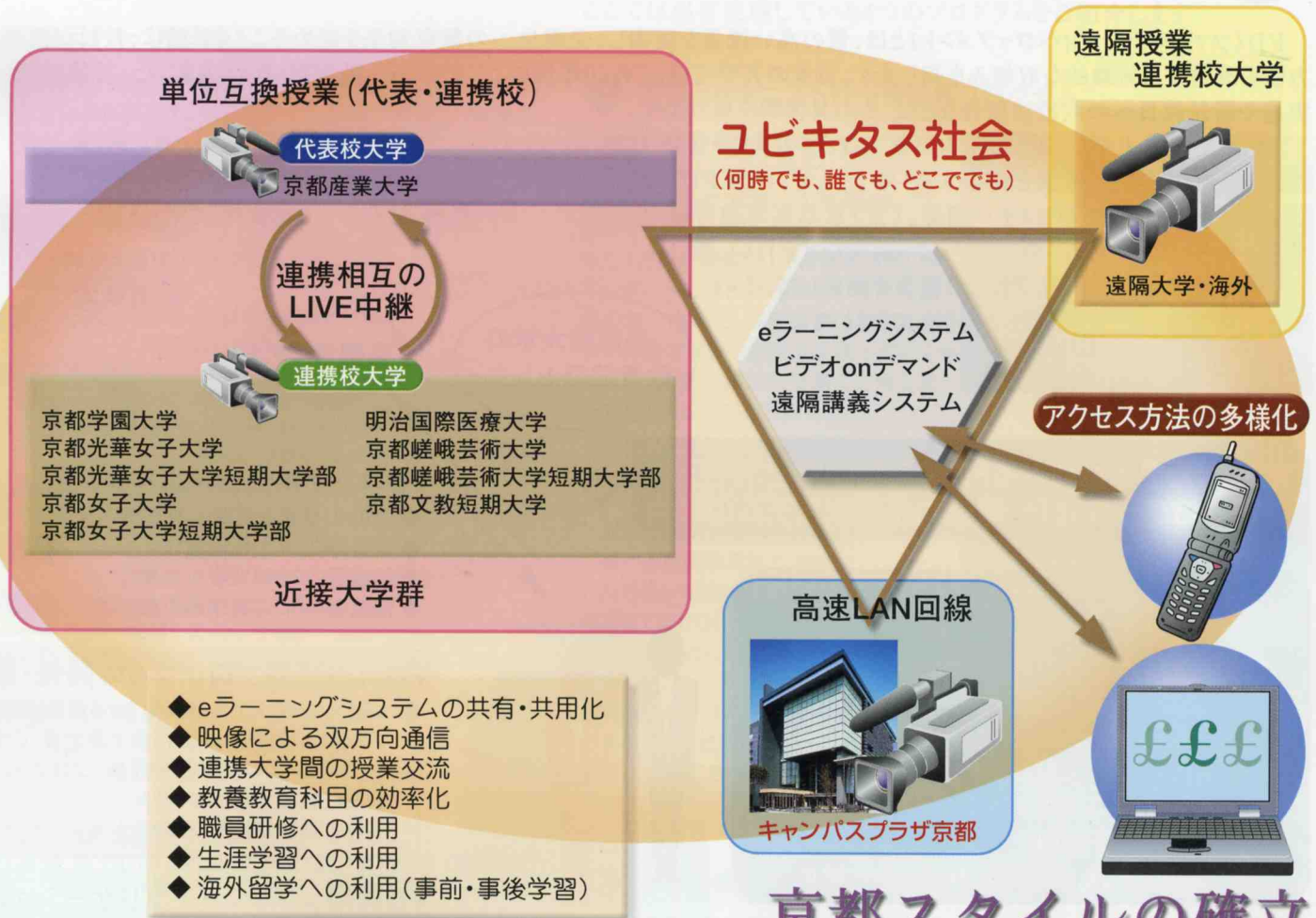


地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立

代表校名: 佛教大学
 連携校名: 京都工芸繊維大学、大谷大学、京都外国語大学、京都学園大学、京都光華女子大学、京都産業大学、京都精華大学、京都橘大学、京都薬科大学、種智院大学、龍谷大学、池坊短期大学、大谷大学短期大学部、華頂短期大学、京都外国語短期大学、京都光華女子大学短期大学部、龍谷大学短期大学部
 関係自治体等: 京都市・財団法人大学コンソーシアム京都

eラーニングシステムの共有共用化に伴う
教養教育の大学間連携と効率化の促進

eラーニングは、時間・空間・距離の制限緩和



京都スタイルの確立

平成20年度戦略的大学連携支援事業で選定された「eラーニングシステムの共有共用化に伴う教養教育の大学間連携と効率化の促進」は、現在京都地域で実施している単位互換制度をベースに、eラーニングシステムの共有共用化を図る取組です。

この取組は、各大学が開講している教養教育科目等をインターネットを介して共用し、多種多様な教養教育科目の大学間連携と効率化を狙い、将来、京都地域の大学・短期大学全体が本システムを共用するとともに、海外の大学やコンソーシアム組織との連携を図り、双方向学習の本システムを活用するにより、学生の国際的視野の醸成や国際的通用性の向上を目指しています。

また、ICT活用により、京都学を中心に生涯学習を推進し、誰もが、いつでも、自分の好きな分野を学習することができるユビキタス環境を提供いたします。更に、本システムは、職員能力開発にも活用し、大学職員としての基礎知識やスキルアップ等資質向上に繋げてまいります。

本事業全体の目的は、大学規模に関係なく、同じシステムを共用し、同じように学習するシステムの仕組みを導入することによって、①単

位互換制度の促進、②連携校間の授業交流の促進、③教養教育科目の効率化と合理化、④教養教育のナレッジベース化、⑤大学運営の効率化を目指しています。今回の連携は、4年制大学、短期大学、女子大学、医療系大学、芸術系大学等、さまざまな分野を網羅しており、従来にない広がりをもった「知」の提供が可能と考えています。

更に、海外の大学やコンソーシアム組織と連携し、留学前の事前学習へ活用したり、それぞれの設置科目を開放することにより、より実効的な留学を実施できると共に、日本でも海外の講義が受講でき、より一層、学生の国際的視野の醸成が期待できるだけでなく、海外高等教育機関との「知」の交流が図られ、教員や教育の国際的通用性の向上も期待できるシステムです。他には、SD活動にも活用し、職員の就業前教育として「高等教育情勢」や「大学の基礎知識」等の習得を図ることで、就業後の職能開発を一層進めることを狙っています。

このような様々な取組を本eラーニングシステムに有効に取り入れることにより、「京都スタイル」のeラーニングシステムの構築を目指しています。

eラーニングシステムの共有共用化に伴う教養教育の大学間連携と効率化の促進

代表校名:京都産業大学

連携校名:京都学園大学、京都光華女子大学、京都嵯峨芸術大学、京都女子大学、明治国際医療大学、京都光華女子大学短期大学部、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都女子大学短期大学部、京都文教短期大学

関係自治体等:京都市・財団法人大学コンソーシアム京都

教員の教育力向上と職員の能力開発を目指して

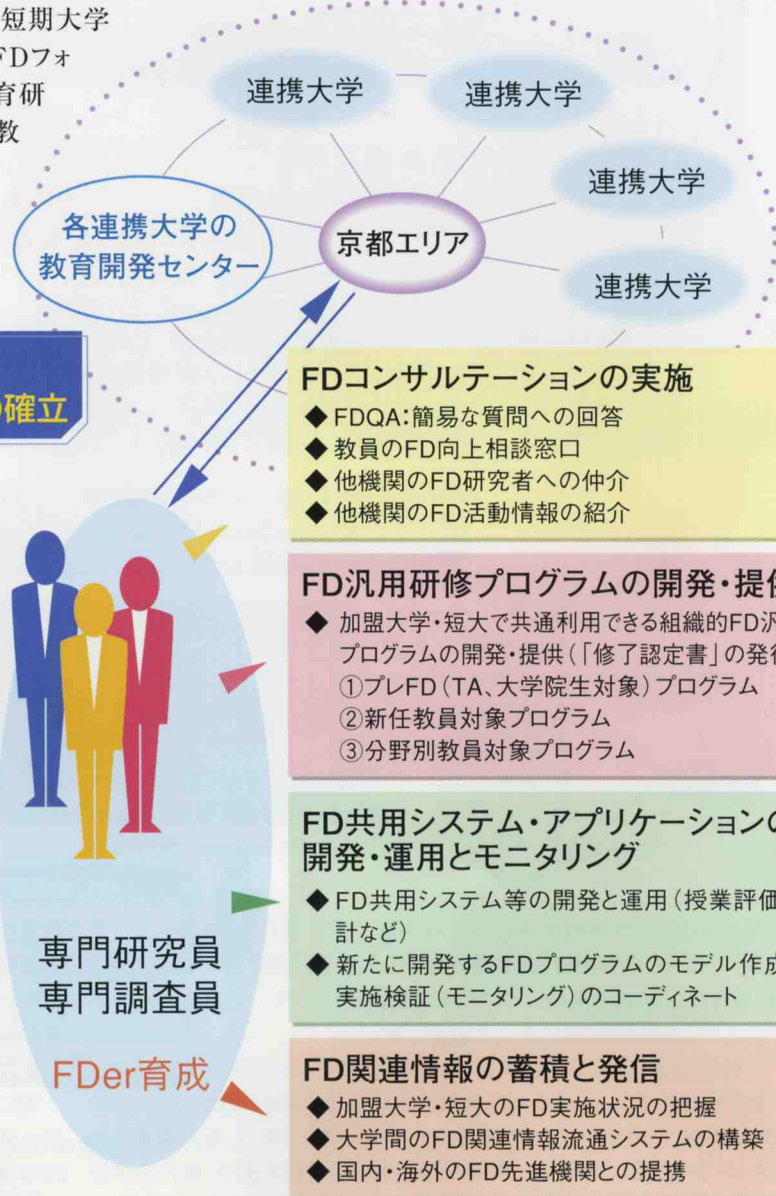
FD

Faculty Development

FD(ファカルティ・ディベロップメント)とは、質の高い授業を展開し、受講生への教育効果を高めることを目的に、教員が授業内容・方法を改善する組織的な取組みを指します。日本の大学では、この10年間でようやくFD活動が根づいてきました。授業アンケートの実施や新任教員への教授法研修などは、その具体的な現れです。

これまで(財)大学コンソーシアム京都では、加盟大学・短期大学のFD活動を支援し、連携を促進する「場」として、(Ⅰ)FDフォーラムの主催、(Ⅱ)FDセミナー開催、(Ⅲ)京都高等教育研究センター「FD研究会」のプロジェクト研究などを行い、教員に「情報交換」と「研究交流」の機会を提供して、その成果を報告書にまとめて全国に発信してきました。

以下、各事業の内容を紹介します。



地域内大学連携によるFDの包括研究と 共通プログラム開発・組織的運用システムの確立

特色

- I. FDer牽引型事業の展開
中小規模大学・短大の牽引
- II. FD共用システム・アプリケーションの開発・運用指導
汎用的な授業評価システム等の構築
- III. SDと連携したFDプログラムの開発
教職協働の実践コミュニティの形成
- IV. 地域の緊密性
年間を通じた継続的なプログラムの提供

京都FD開発推進センター

FDコンサルテーションの実施

FD汎用研修プログラムの開発・提供

FD共用システム・アプリケーションの開発・運用とモニタリング

FD関連情報の蓄積と発信

FDコンサルテーションの実施

- ◆ FDQA:簡易な質問への回答
- ◆ 教員のFD向上相談窓口
- ◆ 他機関のFD研究者への仲介
- ◆ 他機関のFD活動情報の紹介

FD汎用研修プログラムの開発・提供

- ◆ 加盟大学・短大で共通利用できる組織的FD汎用プログラムの開発・提供(「修了認定書」の発行)
 - ① プレFD(TA、大学院生対象)プログラム
 - ② 新任教員対象プログラム
 - ③ 分野別教員対象プログラム

FD共用システム・アプリケーションの開発・運用とモニタリング

- ◆ FD共用システム等の開発と運用(授業評価集計など)
- ◆ 新たに開発するFDプログラムのモデル作成と実施検証(モニタリング)のコーディネート

FD関連情報の蓄積と発信

- ◆ 加盟大学・短大のFD実施状況の把握
- ◆ 大学間のFD関連情報流通システムの構築
- ◆ 国内・海外のFD先進機関との提携

専門研究員
専門調査員

FDer育成

I FDフォーラム

(財)大学コンソーシアム京都に加盟校のFD担当者で構成する「FDフォーラム企画検討委員会」を設けて、平成7(1995)年度より、FD普及ならびに大学教育改善の研究交流の「場」として、企画開催しています。直近の平成19(2007)年度・第13回FDフォーラムは参加者が1,000名を超え、京都地域のみならず、全国から多くの大学教職員(参加者の7割が地域外)が集まる企画に成長しています。

第1期(平成10(1998)年度以前)は「教室内の授業改善を中心としたFD活動の研究交流」、第2期(平成10(1998)年度以降)は「大学内における組織的なFD活動をめぐる研究交流」、第3期(平成19(2007)年度以降)は、「SDや高校・社会等との連携型教育を視野に入れつつ、FDの義務化に向けて先進的に取り組むための研究交流の場」を目的に企画を重ね、実施後は報告書を発行して関係機関に配付しています。2008年度第14回FDフォーラムは、2月28日・3月1日両日に龍谷大学深草学舎で開催します。

【過年度のFDフォーラム参加者とテーマ】

| 実施年度 | 回数 | 参加者数 | テーマ |
|--------|------|-------|--------------------|
| 平成7年度 | 第1回 | 165 | 知の技法 |
| 平成8年度 | 第2回 | 207 | 学生の多様化と大学教育の改善について |
| 平成9年度 | 第3回 | 233 | 授業の創造とFD |
| 平成10年度 | 第4回 | 206 | 組織的教育的あり方 |
| 平成11年度 | 第5回 | 370 | 学生の学力向上に何が必要か |
| 平成12年度 | 第6回 | 586 | 学生の学習意欲向上のために |
| 平成13年度 | 第7回 | 601 | 大学の教育力と学生の学習意欲の向上 |
| 平成14年度 | 第8回 | 577 | 学びのスクラム |
| 平成15年度 | 第9回 | 813 | 生徒が学生に成長するために |
| 平成16年度 | 第10回 | 869 | 評価される大学教育 |
| 平成17年度 | 第11回 | 916 | これからの大学教育 |
| 平成18年度 | 第12回 | 987 | 学生が伸びる大学教育 |
| 平成19年度 | 第13回 | 1,005 | 大学教育と社会 |
| 平成20年度 | 第14回 | | 学生が身につけるべき力とは何か |

SD

Staff Development

大学職員の能力開発のための活動であるSD (Staff Development) は、FD (Faculty Development) と並んで最近注目が集まっています。大学コンソーシアム京都では2002年度よりSD事業を開始しましたが、ここでは現在実施している4つのプログラムをご紹介します。

Ⅱ FDセミナー(年2回)

FDの最新重要トピックを議論するために平成19(2007)年度から開催しているものです。半日を使って、識者の講演及び討論会を行うもので、実施後は報告書を発行し関係機関に配付しています。本年度の開催状況は以下のとおりです。

平成20(2008)年度実績

平成20(2008)年度第1回FDセミナー

(7月26日実施・参加実数99名)

総合テーマ 「FDネットワークの構築に向けて
—大学教育の質保証のために—」

報告 1 FDネットワークの構築に向けて
山本 浩氏(上智大学教授)

報告 2 多層的なFDネットワーク形成
松下 佳代氏(京都大学教授)

平成20(2008)年度第2回FDセミナー

(11月22日実施・参加実数64名)

総合テーマ 「大学教育の質保証と今後のFD
—大学間ネットワーク作りとSDとの連携—」

基調講演 大学教育の質保証のためのFDの役割
安岡 高志氏(立命館大学教授)

報告 1 FD活動の課題と組織的運用を進めるために
原 清治氏(佛教大学教授)

報告 2 SDの観点から今後のFD活動と
大学間ネットワーク構築を考える
久保 明氏(佛教大学総務部長)

京都高等教育研究センター

(Center for Higher Education Research in Kyoto) での研究

(財)大学コンソーシアム京都の附置機関・京都高等教育研究センター(平成17(2005)年度設置)内に「FD研究会」を設け、加盟大学のFD担当教員が集まり、FDプログラムの内容検討を進めています。なおメンバーには職員を含み、「教職協同」体制で研究活動を実施しているのが特徴です。成果物として、『京都高等教育研究センタープロジェクト報告書』(年刊)を発行し、関係機関に配付しています。本年度の研究は以下のようなテーマと研究員で進められています。

平成20(2008)年度「FDの組織的推進のための課題研究Ⅱ」

FDQAの精査と新たな事業として新任教員を対象としたFD研修のあり方を検討する。

研究員(教員)

圓月勝博(同志社大学教務部長)
浅若裕彦(大谷大学文学部准教授)
河原地英武(京都産業大学教育エクセレンス支援センター副センター長)
三好智子(京都ノートルダム女子大学講師)
高橋伸一(京都精華大学教務部長)
林久夫(龍谷大学理工学部教授)
松下佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
松本真治(佛教大学文学部准教授)

Ⅰ 大学アドミニストレータ研修プログラム

大学改革を担う基幹的人材としてのアドミニストレータを育成することを目的に2004年より実施。「大学組織論」「大学のマーケティング」「学生の変容と大学」など12回の講義と1泊2日の合宿、修了レポートの提出が義務付けられた密度の濃い内容で、高等教育に関する幅広い知識の習得や講師や受講生間のネットワーク形成ができ、受講生の満足度も非常に高いプログラムです。



Ⅱ 職員のための大学セミナー

高等教育の課題や大学マネジメントに関わる重要事項など、職員として知っておきたい知識を学ぶことのできる研修として2006年度より実施。2008年度は講師として東京大学の金子元久教授や「カレッジマネジメント」小林浩編集長などをお迎えしました。連続講座ですが1回単位での受講も可能なため、気軽に参加できるセミナーとして好評です。



Ⅲ 大学職員共同研修プログラム

職員の能力向上や大学業務の効率化・高度化を目的とすると同時に、研修を共同で実施することにより各大学の経費削減を目指す事業として2003年度より実施。「ビジネスマナー」や「カウンセリングマインド」等、部署にかかわらず職員として必要とされるスキルを身につけるためのプログラムを毎年内容を変えて開講しています。



Ⅳ SDフォーラム

基調講演および分科会における全国の大学の事例報告や意見交換を通じて、SDに関する情報交流の場を提供することを目的に2004年度より実施。2008年度は「人材マネジメントと職員の能力開発」をテーマに開催しました。近年は200名を超える参加者が集まり、SDに関するフォーラムとしては全国有数の規模を誇っています。



お問い合わせ

大学コンソーシアム京都 高等教育研究推進事業部(FD/SD事業担当)
TEL:075-353-9100/FAX:075-353-9101
[FDその他] cherk@consortium.or.jp
[SD] sd@consortium.or.jp

共同研究プロジェクトのご紹介

2008年度一般枠採用プロジェクト

研究課題 // 「京都市における脱温暖化社会像の定量的描写と 対策ロードマップの提言」



プロジェクトリーダー

島田 幸司
(立命館大学教授)

人為起源の温室効果ガス(GHG)排出による地球温暖化の深刻な被害を回避するために、GHG排出量を大幅に減らすこと、すなわち脱温暖化社会の実現は、国際的な目標となりつつある。その削減量は今世紀半ばごろまでに約半減する必要があるとされている。

そのような脱温暖化社会の姿は現在の状況とは大きく異なっていると考えられ、実現には数十年という長期間を要する可能性が高い。そのため長期的な目標と計画が必要である。その具体的な対策の実施にあたっては地方自治体の役割も相当大きいものと考えられる。大都市である京都市にとってもその役割は重要であり、世界に対して脱温暖化社会のモデルを示すことが望まれる。

これまでも京都市では官民ともに、先進的な環境への取り組みを行ってきた。2008年には首相官邸の募集した「環境モデル都市」に応募し、「環境モデル候補都市」に選ばれたことも、これを示しているといえよう。しかしこれまでに京都市で行われてきた温暖化対策は比較的短期(10年以内)で、その削減量も10%程度である。これは京都議定書の目標達成を中心としてきたためでもあり、それ自体は大いに評価すべきことである。しかし、「脱温暖化社会」に求められるような大きな社会システムの変革を目指すにはこれまでと異なる発想が必要になる。すなわち、目標とする社会像を描き出し、それに向けて今からどのような行動を起こすべきか、どのような分野に環境対策の資源を投資すべきかを、長期的な視点で検討、実践せねばならない。そこで本研究では、まず京都市において温室効果ガス大幅に削減したときの定量的な社会像を示し、次に、それを実現するためのロードマ

ップ、即ち「いつ、誰が、何を」すべきかを示す。削減目標は2030年に1990年比50%削減としている。

GHG排出量は目標年の社会経済の活動状況によって大きく影響を受ける。そこで人口・世帯数とそれらの構成、産業構造、土地利用・交通構造などの具体的・定量的な想定が必要である。また、GHG排出削減対策は非常に多様で広範囲にわたる。さらに、GHG排出削減対策の導入が社会経済活動状況へ影響を与えることも考えられる。本研究ではこれらを一体的に推計するためのコンピューター・プログラム(定量推計ツールと呼ぶ)を開発する。これを利用して京都市における2030年の社会経済の活動状況、そのもとでのGHG排出量、そして削減目標を達成するために必要な対策の導入量を推計し、京都市が目指すべき脱温暖化社会としての将来像を示す。

次に、そのような社会像を達成するためのロードマップを作成する。目標年の状況から逆算して対策別に時間軸上の導入(普及)過程を示すシステムティックな方法論を開発する。これを適用して、目標とする将来像に到達するためには、いつ、どのような市政府の施策が必要か、市民、事業者などのどのような協力・行動変化が必要かを検討し、時間軸上の行程表として示す。

これまでのところ、京都市での脱温暖化社会とは具体的に一体どのようなものなのか、そのときの暮らしや産業の様子はどうなっていれば良いのか、といったことは(その必要性が認知されている一方で)未だ明らかでない。その姿は必ずしも一つに限られないが、本研究が示す社会像はこのような疑問の一つの回答を与えるだろう。さらに、定量的な根拠のある議論が可能になり、ロードマップにおいて行動の優先順位を示すことで、京都市における脱温暖化社会の実現に大きく貢献するものと考えられる。

プロジェクト研究員：松岡 讓(京都大学大学院教授)
五味 肇(京都大学大学院博士課程)
リサーチアシスタント：由良 僚章(京都大学大学院修士課程)

京都アカデミア叢書「4号」の紹介

京都学術共同研究機構では、このたび、2007年度のプラザカレッジ21世紀学講座として開講した「絆-喪失から再生・新生-」を京都アカデミア叢書第4号として発刊いたしました。

現代社会においては、人と人との繋がりや心の結びつきが弱くなってきていると言われています。様々な社会問題が起こる背景には、そういった「絆」の問題があることも、決して無視することはできません。では、本来あるべき「絆」とはどのようなものなのでしょうか。あらためて問いかけてみたいと思います。「誕生」から「臨終期」まで、人生におけるそれぞれのライフステージで、「絆」を見つめ直すことによって、生きていく中で、誰かに救われたり、手を差し伸べられたりしていることに気がつけば、私達は、もっと優しく生きて行けるのかもしれませんが。学ぶというより、長く閉ざされていた扉を開くつもりで、この本のページを開いてみませんか。各界で活躍されている著者達が、豊富な経験や知識をもとに、わかりやすく読者に語りかけます。この冬に、生きていく中で感じる辛さや苦しさの中にも、温かなぬくもりがあることを感じていただければと願っています。

京都アカデミア叢書は、キャンパスプラザ京都1階受付でお買い求めいただけます。また、第2号「歌のこころ ひとの心」、第3号「こころのチカラ」、第4号「絆-喪失から再生・新生-」については、京都市内大型書店、大学生協・書店でもご購入いただけます。是非ご利用ください。

京都アカデミア叢書
絆
きずな
喪失からの再生、そして新生へ

最新刊

(2008年12月発刊)

私たちは何を見失ったのか。

さまざまな社会問題の背後に潜む、「つながり」の希薄化、人と人、心と心の結びつきのあるべき姿とは、誕生から成長、成熟、そして老いと、それぞれのライフステージから「絆」を探る。

(第1) 大学コンソーシアム京都 プラザカレッジ21 協同学講座

定価
1,000円(税込)

母と子の絆は、地球を救う

佐藤 香代(福岡県立大学教授)

“つながり”を育む喜び — 家族が共有する記憶 —

梶井 祥子(北海道武蔵女子短期大学准教授)

いじめ問題を通して、子どもたちの人間としての絆を考える

原 清治(佛教大学教授)

青年期における同一化形成と関係性

溝上 慎一(京都大学准教授)

WEDDING NOW — 時代と共に変わる結婚式 —

渡部 隆夫(ワタベウェディング株式会社)

絆と豊かな人生

細見 吉郎(京都市副市長・宝ホールディングス元会長)

“老い”という人の完熟を考える

樋口 和彦(前京都文教大学学長)

絆 — 死にゆく力、看取る力

浜本 京子(日本バプテスト病院牧師・チャプレン)

京都から発信する都市政策

第4回政策系大学・大学院研究交流大会

2008年12月14日(日)、キャンパスプラザ京都にて、第4回政策系大学・大学院研究交流大会「京都から発信する都市政策」が、学部生、院生、教職員、自治体関係者、一般社会人等約420名の参加のもと、開催されました。

本大会は、政策系大学・大学院の学生・院生・教員相互の研究交流と発表機会を提供し、内容を相互に評価しあうことによって、それぞれの教育や研究の成果を実際の政策や課題につなぐ機会となっています。

今回は、口頭発表48組、パネル発表17組の発表のほか、学生実行委員会企画による鼎談「自転車から、自分と社会のかかわり方を考える—オトナとガクセイの本気の議論—」もあり、活発な意見交換がなされました。最後には、懇親会・表彰式が行われ、盛況のうちに幕を閉じました。



■パネル発表



■口頭発表

■学生実行委員会

各賞受賞者

| | | |
|-----------------|--------------|------------------|
| 京都府知事賞 | 林田 将平(立命館大学) | 足助 重成(立命館大学大学院) |
| 京都市長賞 | 坂田 源平(龍谷大学) | 杉林 真樹子(京都橘大学大学院) |
| 大学コンソーシアム京都理事長賞 | 岡田 紗佳(立命館大学) | 石井 敦子(同志社大学大学院) |
| 日本公共政策学会賞 | 秋本 翔太(立命館大学) | 西阪 亮(同志社大学大学院) |
| 優秀賞 | 村井 勇介(龍谷大学) | 三木 俊和(龍谷大学) |
| | 樽井美乃里(京都橘大学) | 川島 千沙(京都橘大学) |
| | 前川 暁恵(佛教大学) | 西原 健太(立命館大学) |
| | 世古 和希(立命館大学) | 鈴木 孝男(同志社大学大学院) |
| | 吉川 徹(立命館大学) | |



リゾン・共同研究事業部

共同研究事業

▶ プラザカレッジ都市政策特別講座「都市ブランドと政策」

都市ブランドとはなにか、京都という都市が持つブランド力について、文化、モノ作り、観光といった多様な視点から考えていく講座を開講しました。受講者数は延べ313名。



- 第1回 9月14日(日) 「いけばなを生みだしたの、いけばなを完成させたもの」
池坊 由紀氏(華道家元池坊 次期家元)
- 第2回 9月21日(日) 「小さくてもオンリーワン」
一澤 信三郎氏(株式会社 一澤信三郎帆布 代表取締役)
- 第3回 9月28日(日) 「都市政策としてのブランディング」
【鼎談者】井口 貢氏(同志社大学教授)
中田 邦彦氏(東海旅客鉄道(株)営業本部担当部長)
永井久美子氏(京都市産業観光局観光部長)

▶ プラザカレッジ京都学講座「全国プロジェクトin名古屋」

「京都」ならびに「京都の伝統文化」の魅力を全国に普及するとともに、京都地域での学びを紹介することを目的に開催。今回は、京都が生み育てた、能・狂言・歌舞伎・舞の基礎知識と、源氏物語を描いた舞台作品を紹介する講座を名古屋市内において開講しました。受講者数は延べ444名。



- 第1回 10月 5日(日) 「京都の芸能」—芸能を生み、育んだまち—
広瀬 依子氏(「上方芸能」編集長、大阪樟蔭女子大学講師)
「源氏物語と芸能」—舞台に描かれた恋の形—
森西 真弓氏(立命館大学教授)
- 第2回 10月26日(日) 「狂言を楽しむ」 実演演目:「仏師」
茂山 良暢氏(能楽師大蔵流狂言方)

▶ プラザカレッジ21世紀学講座

「暴力(バイオレンス)―心と身体と社会を映す鏡」

21世紀の世界にはいろいろな形での暴力の危機が存在します。見方・切り方によっては本質に気付いていないということも沢山あります。2008年度はその気付きを考えていく講座として次の内容で開講しました。
受講者数は延べ486名。



- 第1回 10月19日(日) トークショー
LOVE&PEACE(ラブ&ピース) 井筒 和幸氏
(映画監督)
- 第2回 10月26日(日) メディアの影響
—情報学からパスベクティブ— 松原 伸一氏
(滋賀大学教授)
- 第3回 11月 2日(日) 国際政治における暴力 村田 晃嗣氏
(同志社大学教授)
- 第4回 11月 9日(日) 暴力/非暴力、そして自由/不自由
—犯罪や刑務所から考える— 古川 哲史氏
(大谷大学准教授)
- 第5回 11月16日(日) 子どもたちにとって、ネットいじめはどれほど痛いか
—ツールとしての携帯とその暴力性を考える— 原 清治氏
(佛光大学教授)
- 第6回 11月23日(日) アメリカの差別と人権
—アフリカ系アメリカ人の歴史から— ロバート F・ローズ氏
(大谷大学教授)
- 第7回 11月30日(日) 家庭内暴力の影響
—虐待と非行・DVの連鎖を読む— 野田 正人氏
(立命館大学教授)
- 第8回 12月 7日(日) 公的暴力・私的暴力 上野 千鶴子氏
(東京大学教授)

総務・広報部

全国大学コンソーシアム協議会

▶ 第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

【日時】2008年12月13日(土)～14日(日)
【場所】名古屋大学 IB電子情報館、法経共用棟
【主催】全国大学コンソーシアム協議会
【共催】愛知学長懇話会、大学コンソーシアムせと
【メインテーマ】「地域における学術・文化の創造と情報の発信をめざして
—産学官民の連携による大学コンソーシアムの形成—」
【参加者数】合計:335名(講師など含む)
分科会参加人数:



| | | | |
|-----|------------|------------|------------|
| 1日目 | 第1分科会:100名 | 第2分科会:120名 | 第3分科会: 62名 |
| 2日目 | 第4分科会: 64名 | 第5分科会: 96名 | 第6分科会: 38名 |

学生交流事業部

学生交流事業

▶ 第6回京都学生祭典

第6回京都学生祭典は、様々な方々のご支援・ご協力をいただき、予定していた全てのプログラムを無事実施することができました。今年は、みやこめっせでの新企画「～来て見て体験!～みやこコレクション」やNHKとのメディア連携企画なども実施し、最後の平安神宮Grand Finaleでは、6,000人が「京炎 そでふれ!」の総おどりで締めくくり、成功のうちに幕を閉じることができました。2日間の本祭をとおして過去最高の224,000人もの方々にご来場いただきました。



■開催概要

【日時】2008年10月11日(土) 13:00～18:00
10月12日(日) 11:00～21:00
【場所】<1日目>・京都駅ビル(室町小路広場、駅前広場、大空広場)
・新風館
<2日目>・平安神宮
・岡崎周辺(岡崎公園周辺道路(神宮道、二条通、冷泉通)、岡崎グラウンド、岡崎都市公園、京都府会館第1ホール、第2ホール、京都府会館エントランス、京都市立美術館前、京都市立美術館別館、京都府立図書館前、京都国立近代美術館前、みやこめっせ)
【総来場者数】10月11日(土) 京都駅ビル・新風館… 28,000人 内訳 京都駅ビル 23,500人
新風館 4,500人
10月12日(日) 平安神宮・岡崎周辺…196,000人
計 224,000人

【実行委員・おどり手・担ぎ手数】

| | | |
|----------------|------------|----------------|
| 実行委員数 | :54大学5専修学校 | 562名(短期スタッフ含む) |
| 「京炎 そでふれ!」おどり手 | :21大学 | 481名 |
| 「京炎みこし」担ぎ手 | :17大学2専修学校 | 77名 |
| | 59大学7専修学校* | 1120名 |

*大学・専修学校数は、実数です。

【受賞者】主催企画

① Kyoto Student Music Award(全国学生音楽コンテスト/総エントリー数:193)

| グランプリ | 団体名 | 学校名 |
|-------|------|--------|
| | Kano | 徳島文理大学 |

② 京炎 そでふれ! 全国おどりコンテスト(総エントリー数:151団体・参加人数2825人)

- [大学生の部] 第1位 京都大学チアリーディングサークルTREVIS(京都大学)
- [一般の部] 第1位 ピンクチャイルド(大阪)
- [中学・高校生の部] 第1位 京都明徳高等学校ダンス部(京都)
- [小学生以下の部] 第1位 太鼓伝創の会「つぶて」(兵庫)
- [特別賞] 京炎 そでふれ!賞 ※「京都らしさ」を表現できている団体に与えられます
◆京炎 そでふれ!「彩京前線～杏ノ巻・若葉～」(京都大学・京都府立大学)
◆龍谷大学 華舞龍(龍谷大学)
◆京炎 そでふれ!「京小町～風～」(京都女子大学)



「第14回FDフォーラム」開催のご案内

開催日 2009年2月28日(土)～3月1日(日)
会場 龍谷大学 深草学舎3号館(食堂含む)・21号館
テーマ 「学生が身につけるべき力とは何か」
 ー個性ある学士課程教育の創造ー
主催 財団法人大学コンソーシアム京都
後援 文部科学省、京都府、京都市

◆シンポジウム

開催日 2月28日(土) 13:00～17:00
テーマ 「学生が身につけるべき力とは何か」
 ー個性ある学士課程教育の創造ー

【コーディネーター】木野 茂 立命館大学共通教育推進機構教授

【シンポジスト】結城 章夫 山形大学学長
 石川 憲一 金沢工業大学学長
 田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター長

【開催概要】 社会環境・情勢が急変する背景の中、高等教育においても「グローバル化」「ユニバーサル化」の波がおしよせているが、最近では教育の質保証や学生が身につけるべき力が問われている。中央教育審議会で審議された「学士力」もその一つの指針であるが、本来は各大学の理念に沿った個性ある学士課程教育の創造という観点から見たとき、学生が身につけるべき力とは各大学の個性に応じて追求されなければならない。このシンポジウムでは、そのような意味で個性ある先進的な取り組みを続けている二大学からの報告を受けたうえで、学生が身につけるべき力について様々な角度・観点から語っていただき、参加者とともに議論を深めたい。

申込期日

2009年2月1日(日)

申込方法

申し込みは、後掲URLの「参加申込フォーム」にてお願いします。申し込みいただいた方には、2月上旬をめどに「参加証」をお送りしますので、当日必ず持参ください。参加費につきましては当日会場にて徴収(領収書発行)させていただきます。

<http://www.consortium.or.jp/link/fd14.html>

※当日の参加申し込みは、会場の混み具合によって受付をお断りすることがあります。
 ※龍谷大学には駐車できません。公共交通機関をご利用いただき、ご来場願います。

参加費

| 参加費区分 | 情報交換会含む | 情報交換会除く |
|------------------|---------|---------|
| 加盟大学・短期大学教職員 | 5,000円 | 3,000円 |
| 非加盟大学・短期大学教職員、一般 | 7,000円 | 5,000円 |
| 加盟大学・短期大学学生 | 1,000円 | 無料 |
| 非加盟大学・短期大学学生 | 2,000円 | 1,000円 |

京都文教短期大学

CAMPUS SCENE



京都文教短期大学は京都・宇治に位置し、世界遺産など、多くの歴史・文化の宝物があります。このすばらしい環境の中で、仏教精神を基盤とした教養教育を行って、心豊かな人材を育成しています。
 本学設置学科専攻それぞれの専門知識や技術・技能を身につけ、社会で活躍できる人、さらには、他者の喜びを自分の喜びとし、他者の悲しみを自分の悲しみと受けとれる人材が巣立っています。

前号33号におきまして、CAMPUS SCENEでの京都女子大学短期大学の表記に誤りがありました。関係者各位の皆様方大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫言申し上げます。

ミニ・シンポジウム

3月1日(日) 10:00～15:00 定員各200名

▼第1ミニ・シンポジウム

「地域連携型教育から
何が学べるか」

【コーディネーター】三浦 潔(京都文教大学人間学部現代社会学科教授)
 【報告者】森 正美(京都文教大学人間学部文化人類学准教授)／金澤 誠一(佛教大学社会学部公共政策学教授コミュニティキャンパス長)／鯉江 康正(長岡大学経済経営学部環境経済学教授)

▼第2ミニ・シンポジウム

「教職協働
ー教員と職員との協働(Co-work)作りー」

【コーディネーター】高橋 伸一(京都精華大学人文学部教授教務部長)
 【報告者】三浦 真琴(関西大学 学事局教務センター特別顧問)／田中 岳(九州大学教育改革企画支援室准教授)／神保 啓子(名城大学大学教育開発センター主管)／樋口 浩朗(山形大学企画経営企画ユニット企画・評価チーム[企画担当])

▼第3ミニ・シンポジウム

「キャリア教育の実践と今後のあり方
ー学士課程教育の構築を
求める動きの中でー」

【コーディネーター】金谷 益道(同志社大学文学部英文学准教授)
 【報告者】川崎 友嗣(関西大学社会学部教授)／伊藤 文男(武蔵野大学学生支援部キャリア開発課長)／明比 卓(神奈川大学学修進路支援部就職事務部長)

▼第4ミニ・シンポジウム

「大学教育における
eラーニングシステムの可能性」

【コーディネーター】河野 勝彦(京都産業大学副学長教育エクセレンス支援センター長)
 【報告者】坪内 伸夫(京都産業大学情報センター課長)／穂屋下 茂(佐賀大学高等教育開発センター教授)／加藤 幸雄(日本福祉大学副学長)

分科会

3月1日(日) 10:00～15:00 定員各50名

▼第1分科会

「1単位45時間の学習の
実質化の光と陰」

【コーディネーター】松本 和一郎(龍谷大学理工学部数理工学教授大学教育開発センター長)
 【報告者】安岡 高志(立命館大学教育開発推進機構教授)／宮本 孝三(帝塚山大学学生支援センター部長)／植田 正暢(福岡女学院大学短期大学部英語科准教授)／林 久夫(龍谷大学理工学部教授教務主任)

▼第2分科会

「学生とともに進めるFD」

【コーディネーター】木野 茂(立命館大学共通教育推進機構教授)
 【報告者】山内 源(岡山大学教育開発センター職員)／岡山大学 学生2名(学生・教職員教育改善委員)／和田 陽子(立命館大学教育開発推進機構職員)／立命館大学 学生2名(学生FDスタッフ)
 【指定討論者】橋本 勝(岡山大学教育開発センター教授)

▼第3分科会

「未来を担うブレFDの創造
ー大学院生大学教員準備研修の
あり方と課題」

【コーディネーター】大塚 雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
 【報告者】夏目 達也(名古屋大学高等教育研究センター教授)／松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)／福留 東土(広島大学高等教育研究開発センター准教授)
 【指定討論者】小笠原 正明(筑波大学特任教授)

▼第4分科会

「教養・文化教育としての外国語教育」

【コーディネーター】秋澤 雅男(京都薬科大学准教授)／野田 四郎(京都ノートルダム女子大学人間文化学教授)
 【報告者】山取 清(近畿大学語学教育部教授)／清原 文代(大阪府立大学総合教育研究機構准教授)／西山 教行(京都大学大学院人間・環境学研究所准教授)／山本 純一(慶應義塾大学環境情報学部教授)／寺田 裕子(慶應義塾大学総合政策学部訪問講師)

▼第5分科会

「大学での学びの質を高めるために」

【コーディネーター】榎原 典子(京都教育大学教育学部教授)／椛本 洋(立命館大学教育開発推進機構教授)
 【報告者】椛本 洋(立命館大学教育開発推進機構教授)／上田 健作(高知大学人文学部教授総合教育センター大学教育創造部門高大連携部会長兼務)／関目 六左衛門(京都市立西京高校校長)／本林 靖久(大谷大学講師)

▼第6分科会

「主体的な「学び」を
目指した学習支援
ー「グループ学習」と
「プロジェクト学習」の方法と実践ー」

【コーディネーター】國安 俊彦(京都外国語大学・短期大学キャリア英語科准教授)
 【報告者】安永 悟(久留米大学文学部教授、大学院心理学研究科科長)／八重樫 文(立命館大学経営学部環境・デザインインスティテュート准教授)／杉原 真晃(山形大学高等教育研究企画センター講師)

▼第7分科会

「高等教育における
オルタナティブとしての短期大学」

【コーディネーター】藤枝 真(大谷大学文学部講師)
 【報告者】野上 憲男(京都経済短期大学学長)／小林 一彦(京都産業大学文化学部教授)／塚本 泰造(宮崎学園短期大学人間文化学准教授) (FD推進委員会委員長)／阪口 春彦(龍谷大学短期大学部社会福祉科教授)

▼第8分科会

「初年次教育の展望と課題」

【コーディネーター】松本 真治(佛教大学文学部英米学准教授)
 【報告者】谷本 啓(同志社大学商学部商学准教授)／佐藤 広志(関西国際大学高等教育研究開発センター初年次教育部門長)／湯地 宏樹(比治山大学短期大学部准教授)

Information

近日開催予定の行事・イベント

▶第11回京都国際学生映画祭

学生の制作した映画・映像作品を中心に上映し、映画との素晴らしい出会いを創出すべく、毎年、京都で開催している映画祭です。京都を中心とする関西の学生が企画運営を行い、これまで国内外の優れた学生作品を発掘・上映するとともに、国境・世代を越えた交流してきました。今までの歴史とともに、また、21世紀の映画文化を支える新たな才能を「映画のまち京都」から世界へ発信し、未来を担う学生の立場から映画文化のさらなる発展に努めようと例年開催しています。

【プログラム概要】日時:2008年11月22日～28日

【来場者数】合計:382名[京都シネマ(2008年11月22日～28日)、同志社大学寒梅館(11月24日)]

■コンペティション…応募作品263本中、入選作品12本を上映

■特別プログラム…現役監督の学生時代の作品13本を上映する

- ・瀬々敬久「ギャングよ、向こうは晴れているか」
- ・河瀬直美「小さな大きな」「今、「たった一人の家族」
- ・山村浩二「頭山」「水棲」「博物誌」「小夜曲」
- ・山下敦弘「夏に似た夜」「断面」「105円のハンバーガー」
- ・大森一樹「暗くなるまで待てない!」
- ・河瀬直美×是枝裕和「現しよ」

■寒梅館プログラム

- ・著作権シンポジウム(日本国際映画著作権協会)
- ・授賞式(準グランプリ作品 計3本の発表)
- ・準グランプリ…「GO GOまじこ」「ゆめの楽園、嘘のくに」「穢れ多き、人に非ず」
- ・徹底討論(入賞監督・最終審査員・実行委員)
- ・交流会(観客・入選監督・最終審査員・実行委員)

▶芸術系大学作品展2008

芸術系大学作品展は京都で学ぶ芸術系10大学の学生の合同作品展とおして、大学間の垣根を越えた学生・教員の交流、連携を促進させることを目的としています。さらに本事業を地元地域で開催することにより、学生と地域の交流の場、学生作品や学生の創作活動を広く紹介する機会の創出を行い、加えて地域連携を図りながら文化芸術によるまちづくりの一助とします。

【期間】11月11日(火)～11月23日(日)

【場所】①キャンパスプラザ京都1階 情報交流プラザ
②元立誠小学校

【時間】①10:00～21:00 *17日(月)休館
②12:00～19:00

【出品数】①キャンパスプラザ京都:48名 47点
②元立誠小学校 :74名 95点 合計122名142点
①キャンパスプラザ京都:1,645名
②元立誠小学校 :1,812名 合計 3,457名

【来場者数】①キャンパスプラザ京都:1,645名
②元立誠小学校 :1,812名 合計 3,457名

■関連イベント

1.オープニング・パーティ

【日時】11月11日(火)18:00～19:00

【場所】元立誠小学校 会議室

【参加者】約60名

2.作品発表会

【日時】11月16日(日)①13:00～15:00②16:00～18:00

【場所】①立誠小学校②キャンパスプラザ京都

【参加者】①約30名(内、出展学生15名)②約40名(内、出展学生13名)

3.交流会

【日時】11月16日(日)18:30～20:00

【場所】キャンパスプラザ京都2階 ホール

【参加者】約50名



京都学生アートオークション

芸術系大学の学生作品のオークション「京都学生アートオークション」を開催します。今年度はキャンパスプラザ京都のオープンスペースで行うことで、気軽にご参加いただけるようになりました。



「アートと経済」をテーマとした3回の講座と出品作品選考会を経て、応募総数76点から選ばれた40作品がオークションに出品されます。

京都の芸術系大学の学生が、「アーティスト」として今後の進路に向き合う契機の一助となることを目的としています。また、普段学外での発表の機会が少ない学生の作品を展示・販売することで、芸術系大学の活動を紹介するとともに、学生と地域のより強いつながりを創出し、京都地域におけるアートマーケットの普及をめざします。



■作品大学別一覧

| 大学名 | 応募数 | 出品数 |
|---------------|----------|----------|
| 京都教育大学 | 16点(7名) | 10点(4名) |
| 京都嵯峨芸術大学 | 6点(4名) | 4点(2名) |
| 京都嵯峨芸術大学短期大学部 | 3点(3名) | 2点(2名) |
| 京都精華大学 | 32点(13名) | 16点(9名) |
| 京都造形芸術大学 | 19点(11名) | 8点(6名) |
| 合計 | 76点(38名) | 40点(23名) |

※出品作品の詳細につきましては、下記公式HPをご覧ください。

開催日 プレビュー:2009年2月10日(火)～15日(日)
10:00～21:00(最終日は14:00まで)

オークション:2009年2月15日(日)
15:00～18:00(14:30受付開始)

会場 キャンパスプラザ京都1階 情報交流プラザ

主催 財団法人大学コンソーシアム京都

企画運営 京都学生アートオークションワーキンググループ

企画運営補助 京都学生アートオークションボランティアスタッフグループ

お問い合わせ 財団法人大学コンソーシアム京都

TEL:075-353-9100 FAX:075-353-9460

E-MAIL:art@consortium.or.jp

公式HP: <http://www.consortium.or.jp/link/ksaa.html>

2009年度京カレッジ生受講生募集!～学び直しを「京都の大学」で～

「京カレッジ」は、京都市と本財団が主催する市民向け生涯学習事業です。大学で単位を修得できるほか、公開講座・課外講座も多数設けています。教養の増進や自己啓発、職業能力の再開発、資格取得など、目的にあわせて自由に学ぶことができます。出願される方は、2009年3月12日(木)に配布する「2009年度京カレッジ生募集ガイド」をご覧ください。出願書類は募集ガイドに記載しますので、ご確認ください。

◆あなたの生涯学習をトータルにカバーする4本柱!

- ①単位修得も可能な高度な学びを得られる大学講義!
- ②手軽に幅広く教養を身につけられる市民教養講座!
- ③資格取得試験対策のためのキャリアアップ講座(リニューアル)!
- ④地域で活躍するためチカラをつける京都力養成コース(新規)!

◆2009年度の開講予定科目(例)

- ①親鸞を歩く-京都市内の史跡をたずねて-(大谷大学)
- ②多彩な顔を見せる文化都市・京都
～隠れた古都の魅力に迫る～(京都産業大学)
- ③京都のものづくりの技をいまに生かす(京都造形芸術大学)
- ④青少年問題を考える(花園大学)
- ⑤禅と禅文化を知る(花園大学)
- ⑥京都歴史回廊探究コース(京都歴史回廊協議会)
- ⑦京の彩(いろどり)「不思議な色の魅力を探る」(立命館大学)
- ⑧伏見城とその城下町の魅力を探る(龍谷大学)
- ⑨「被害者支援」の現場から～被害者から学ぶ～(京都府警察本部)
- ⑩プラザカレッジ京都学講座
「京おんな 万華鏡」(大学コンソーシアム京都)

受付期間 郵送:3月12日(木)～3月28日(土)

持参:3月21日(土)～3月28日(土)(火曜日～日曜日の9時～17時まで)

出願先 財団法人大学コンソーシアム京都

募集ガイド配布先 キャンパスプラザ京都(月曜休館)、京都市役所・区役所・支所(土日祝日除く)、京都市内の市立図書館など